

まほろば囃子の 創作に寄せて

井上正彦（岡豊小学校教頭）

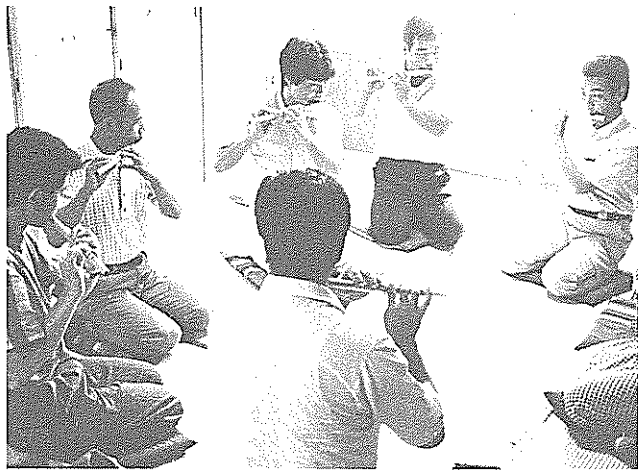


井上 正彦さん

田村遺跡、古墳群、国衙跡、岡豊城址、舟入用水等、歴史的、文化的に由緒ある郷土。太平洋、香長平野、そして北部の山々には太陽がさんさんと降り注ぎ、バラエティーに富んだ産業を生み、清澄な空気と緑につつまれた健康的な自然のたたずまい。こんな宝物を持った郷土がほかにあるでしょうか。この南国市を改めて見直し、誇りと郷土愛を全市民のものにしたいものです。

新しい文化を生み出すことはたやすいことではありません。それは全市民が協力し、英知を結集して根気強い努力を続ける過程でのみ約束されることで、安易な期待は禁物です。

最近、あちこちで太鼓中心のイベントが統々誕生しています。力強い連打の迫力と派手な立ち回りにはだれしもが酔いしれます。今度の企画に多くの市民はそのようなイメージを持っているのではないのでしょうか。しかし、南国市のまほろば囃子はそれらとは趣を異にし、獅子舞などでおなじみの、笛と太鼓が互いに侵すことのない、しかも研ぎ澄まされた調和の中に美しい響きを生み出す、本来の囃子の伝統をたいせつにしたものです。大小たくさんの太鼓を並べた物理的な迫力とは違った意味の、文化の香り高い、しかも庶民性を



篠笛の基礎練習始まる（八月十九日）

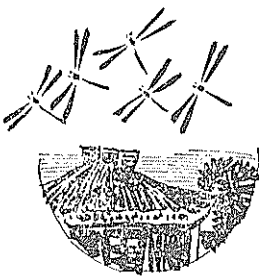
こうした願いを象徴するかのよう

持った表現を希求しており、我々の知る限りではないへん希少な試みだと思えます。

初めの会合で先生から「江戸囃子」を聞かせていただきましたが、勇壮な太鼓のリズムにはない、笛と太鼓の調和のとれた、魅惑的で庶民の生活の営みや願いを象徴するかのよう美しい響きに、親しみと心の安らぎを感じました。市民がこうした囃子の持つユニークな価値に理解と関心を持つことこそまほろば囃子を生み育てる原動力だと思えます。

身につけられた二人の若い先生、新しいなにかを生み出そうとする創作意欲に満ちあふれたさわやかに触れ、敬意と期待に胸が膨らみました。

四十年の会員が共通の目的を持つて出合い、一生手にするものになかったはずの篠笛に、たどたど



士佐のまほろば囃子振興会は七月十三日に結成されました。会員は四十数人。一日も早くまほろば囃子を実現しようという練習に励んでいます。興味のある方は左記までお問い合わせください。

士佐のまほろば囃子振興会事務局
市役所（☎2111）
企画財政課（内線207）
産業経済課（内線221）